夏代はほおずきを花束のように抱えながら並木道を歩き、坂道を下り、昇り、また下った。

川っぷちの町に着いて、商店街で訊ねながら行くと、その家は案外簡単に見つかった。

【ひっそりとした、木造の小さな家の門柱に「藤原」という表札が見えた。①人気のない玄関の引き戸の前で、なんとなく入りかねていると、背後で足音が聞こえた。

犬を連れた老人が立っていた。柴犬に似た雑種らしい犬は、はッはッと息を吐きながら立ち止まった主人を見あげている。

「あの……、藤原俊造さんですか」

「そうですが」

老人は不思議そうに、ほおずきの花束を抱えた奇妙な女の子を見つめた。

「あの、あたし、お財布を拾ってもらった者なんですけども……」

「ああ」

②老人は合点がいったように頷いた。

「あの、ほんとにありがとうございました」

そう言って頭を下げたとたん、唐突に冷たい涙が滝のように夏代の頬を流れ落ちた。びっくりしたのと恥ずかしいのが一緒くたになって、夏代の身体の内側を駆けまわった。

夏代は「お礼です」と叫ぶように言ってほおずきを老人に渡し、驚いた顔の老人と犬に「さよならっ」と言った。

駅へ続く坂道を、夏代は駆け昇った。心臓がばくんばくんと音を立てた。終わりかけた夏の風が夏代の頬をすべっていった。

そう思ってしたことでなくとも、優しさとか善意とかいうものは確かに人間を救うことがあるんだな。わけのわからなくなった頭の中で、夏代はそんなことを考えていた。

何か月ぶりかで走った。何か月ぶりかで身体が汗のぶんだけ軽くなり、そのぶん心も軽くなったような気がした。】

（鷺沢萠『海の鳥・空の魚』角川書店　所収「ほおずきの花束」による）

例題

═線部「夏代はほおずきを……また下った」とあるが、夏代は何のためにほおずきを抱えているのか。本文中の言葉を参考に簡潔に答えなさい。

［　　　　　　　　］

場面・状況の読み取り

文学的文章は、時・場所・登場する人物が変わる箇所（かしょ）に注目し、場面に分けながら読むとよい。場面を捉える（とらえる）ことで、物語の展開や登場人物の心情の変化が読み取りやすくなる。

・いつ（時代、季節、時期、時刻）
・どこで（登場人物がいる場所、出来事が起きる場所）
・だれが（どんな人物が登場しているか）
・どうした（何をして、何があって、結果どうなったか）

また、場面が変わったときは、まずはその場面の状況（じょうきょう）を理解することが大切である。

・「いつ」「どこで」の出来事が描（えが）かれているか。
・「だれが」その場面に登場し、人物の設定や人物どうしの関係はどう描かれているか。

※「　」内の文（会話文）とそれ以外の文（地の文）で、登場人物の呼び方が異なる場合があるので整理しながら読む。

登場人物が多い場合は相関図などを作りながら読み進めるとよい。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 【　】の箇所を、「夏代」がいる場所に注目して二つに分けたとき、後半の最初の三字を答えなさい。

(2) ——線①「人気」の読みを答えなさい。

〔　　　〕

(3) ——線②「老人は合点がいったように頷いた」とあるが、老人はどんなことを理解したのか。適当なものを選びなさい。

ア　目の前にいる女の子が「夏代」であること。
イ　女の子が財布を拾ってもらったお礼を言いに来たこと。
ウ　「夏代」が自分の善意のために救われた気持ちになったこと。

〔　　　〕